



小児科

★理念

少子化問題が語られるようになって久しい。多くの国民の小児科専門医指向が高まる中、小児科専門医の需要は高まる一方である。小児科で扱う疾患は各領域にまたがり、急性疾患から慢性疾患まで範囲が広い。また、小児疾患は年齢に特有の特徴を有し、その後の成長・発育にも大きな影響を及ぼす。さらに、状態が急速に変化することが多く、症状の変化を適時、的確にとらえ、迅速に処置を行える技術の取得が必須である。また保護者が遭遇する様々な状況に対しても十分な配慮が要求される。さらに、小児重症疾患に対しては、適切な評価、診断、治療の計画が速やかに立てられるよう、努めなければならない。

京都大学小児科では、出生前から成人に至る全課程を総合的にとらえ、成育医療の視点に立った医療の実践が行える幅広い臨床能力と豊かな人間性を持つ小児科専門医の育成を目指している。そのために、大学附属病院、関連病院が一体となり、小児科専門医養成プログラムを作成し、各分野における最高水準の一般医療、先端医療を推進するとともに、それにあたる人材の育成、確保に努めている。

また、一般小児科専門医としての実力に加えて、自分の得意とするサブスペシャリティーを身に付けて行く必要があり、そのため特徴ある関連病院と大学で研修することにより、サブスペシャリティー学会専門医の取得を奨励している。一方、明日の医学を創り出すのに必要な情報を発信するため、大学院教育を充実させ、研究能力を有する人材を確保し、大学院大学の持つ診療、教育、研究の3つの使命の推進をはかっている。

★小児科臨床研修コース

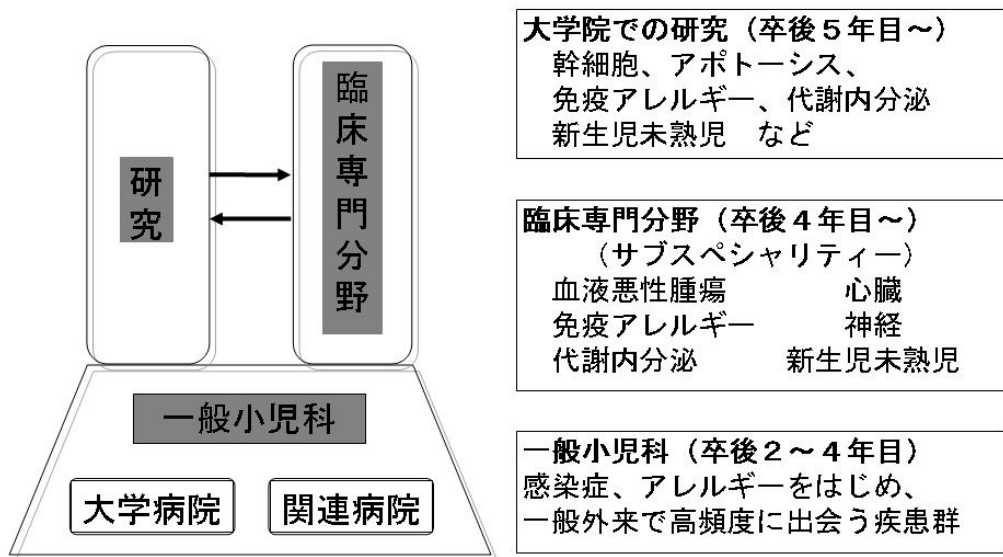
1. 概要

- ・ 卒後2年：各研修施設の臨床研修プログラムに沿い、スーパーローテート研修を行う。
- ・ 卒後3年～：原則的に京都大学小児科に入局し、学内学外で小児科研修を行う。
- ・ 卒後6年目：日本小児科学会専門医を取得する。
- ・ 卒後5～7年目：大学院、大学附属病院（医員）、学外（関連病院医師）において、各分野の専門医（サブスペシャリティー）を目指して、基礎研究・臨床研究・臨床研修に努める。

2. 学内での研修方法

- ・ 小児科病棟においては、基本的に(A)スーパーローテーター(B)卒後3年目の医員(C)医員、大学院生(D)助教または講師の4人主治医制をとる。主治医間、臨床グループ単位（血液・悪性腫瘍、循環器、神経、免疫アレルギー、代謝・内分泌）で緊密に症例検討を行っている。
- ・ 一般外来・専門外来においては、外来担当医師のもと外来診療を研修する
- ・ NICUにおいては、指導医のもと受けもち医として診察・診断・治療方針を学ぶ。毎日全症例についてカンファレンスを行っており、受け持ち以外の症例に関してもできるだけ多くのことについて学ぶ。
- ・ 休日診療所においては、指導医と共に小児疾患の診療にあたる。

小児科医のキャリアメイキング



3. 各段階での一般目標・行動目標

- 卒後1年目 小児の診察に慣れ、基本的手技に対する恐怖心をなくす。
病児を全人的に理解し、病児・家族（母親）と良好な人間関係を確立する。
2ヶ月以上ローテートする場合、指導者のもとで基本的手技（の一部）を施行する。
（救急・外科等をローテート中も小児診療に必要な知識を積極的に得ることが望ましい。）
- 卒後2年目 総合診療としての小児科の基本を経験・体得する。
指導者のもとで小児特有の症状や検査所見に応じた診断、治療のプロセスを学び、理解できる（例：輸液、栄養、抗菌剤の選択、呼吸管理、薬物療法）。
指導者のもとで診察、基本的手技ができる。
ローテート期間に応じ、1～2ヶ月のNICU研修を選択科目として行う。
- 卒後3年目～ 症状により適切な検査を選択し、正しい鑑別診断や治療計画を立案できる。
4年目を目処に、一般的な疾患の診療を独立して行える様にする。
院内外の学会・研究会での発表を通じ、症例をまとめ、プレゼンテーションする能力を身につける。
特徴ある関連病院と大学での研修を通じ（軽症から重症まで、救急医療・高次医療・成育医療・健康支援含めまんべんなく）、将来自分の目指すサブスペシャリティーを選択する（4～5年目）。

※基本的手技

採血・皮下注射	導尿	新生児の採血・点滴確保
静脈注射・点滴静注	輸血	新生児の光線療法の管理
吸入療法	胃洗浄	新生児の頭部エコー
浣腸	腰椎穿刺・骨髄穿刺	新生児の胸部エコー

※研修の具体例

1年目 SR	大学	学外	大学	大学	学外(京大プログラム外)			学外(京大プログラム外)		
2年目 SR	大学	大学	学外	学外	学外(京大プログラム外)			学外(京大プログラム外)		
3年目	学外	学外	学外	医員	医員	医員	学外	学外	学外	
4年目	医員	学外	学外	医員	学外	学外	医員	学外	学外	
5年目	院 医員 学外	医員	学外	院 医員 学外	医員	学外	院 医員 学外	医員	学外	
6年目 専門医	院 医員 学外	院 医員 学外	医員	院 医員 学外	院 医員 学外	医員	院 医員 学外	院 医員 学外	医員	
7年目	院 医員 学外	院 医員 学外	院 医員 学外	院 医員 学外	院 医員 学外	院 医員 学外	院 医員 学外	院 医員 学外	院 医員 学外	
8年目	院 医員 学外	院 医員 学外	院 医員 学外	院 医員 学外	院 医員 学外	院 医員 学外	院 医員 学外	院 医員 学外	院 医員 学外	
9年目		院 医員 学外	院 医員 学外		院 医員 学外	院 医員 学外		院 医員 学外	院 医員 学外	
10年目			院 医員 学外			院 医員 学外			院 医員 学外	

4. 京都大学小児科関連病院

静岡県立こども病院	京都市立病院	大阪北通信病院
静岡県立総合病院	京都通信病院	関西電力病院
静岡市立静岡病院	医仁会武田総合病院	日赤和歌山医療センター
市立島田市民病院	京都専売病院 (武田病院)	兵庫県立塚口病院
浜松労災病院	国立病院機構南京都病院	神戸市立西神戸医療センター
松波総合病院	国立病院機構宇多野病院	神戸市立中央市民病院
福井赤十字病院	聖ヨゼフ整肢園	神戸市総合療育センター
福井県立病院	宇治徳洲会病院	神戸市先端医療センター
彦根市立病院	奈良社会保険病院	国立病院機構姫路医療センター
公立甲賀病院	大和高田市立病院	赤穂市民病院
滋賀県立小児保健医療センター	近畿大学医学部奈良病院	財団法人倉敷中央病院
大津赤十字病院	天理よろづ相談所病院	島根県立中央病院
公立高島総合病院	国立循環器病センター	
日本パフレスト病院	高槻赤十字病院	
国立病院機構京都医療センター	枚方公済病院	
京都市桃陽病院	田附興風会北野病院	
京都桂病院	大阪赤十字病院	
足立病院	市立岸和田市民病院	
洛和会音羽病院	中野こども病院	
三菱京都病院	大阪府済生会中津病院	